BCAO 関西支部　第 62 回勉強会議事録

1. 勉強会概要

（1）日時：2012年1月 18 日（水）18：30～20：20
（2）場所：人と防災未来センター　6 階会議室
（3）座長：紅谷　昇平
（4）書記：大舘　伸行

（5）出席者：20 名（順不同、敬称略）
角、川口、萩原、柳父、伊藤、田中、西濱、野原、紅谷、山口、大野、小友、久保田、佐原、速水、鷲山、佐竹、鶴谷、増穂、大舘
（6）議題：東日本大震災の宮城県の対応課題とクロスロード演習

- 11 月より人と防災未来センターにて宮城県震災対応について検証事業を行う。
- 検証対象は宮城県の災害対応を行った県庁の各課、地方機関。
- 宮城県の報告書作成に検証内容を反映させる。
- 庁舎での問題　エレベータが 2000 年の基準には適合していたが、その後 2009 年に基準が変更、その基準には対応できていなかったので、ロープが絡まった事案有り。最新の基準に合うようにしておくべきであった。
- 停電はしたが断水はしなかった。トイレは使えた。
- 非常用発電機は動いたが、燃料が半分しか入ってなかったため、直に燃料切れになる可能性があった。
- 電話回線は KDDI 光電話を使用しており、この電話は一旦東京の施設に繋がってから各地に繋がるようで、東京と宮城県間が断線したので使えなかたった。NTT は回線が少なかったが、緊急に増設を依頼した。衛星電話は KDDI と NTT より大量に借用し振り分けた。
- 庁舎の復旧もやる必要があったが後回しにして、人手が足らない物資の仕分けを手伝ったが、マニュアルには別の課が対応することになっていた。担当部署（課）にはその認識がなかった。
- 食料問題としては県職員の食料調達が考えられていなかった。職員用食料については福利厚生を担当している職員厚生課が担当（食堂等）。但し、支払方法や職員が食べるものなので税金はつかえず、当初は支払元や方法が決まっていないなかで食堂運営業者に供給をお願いした。産業医が来庁できず、県立病院の医師に来庁してもらい診療所を開設した。
- 最終的にこの調査は宮城県の報告書として纏められ、3 月頃ホームページ等で公表される予定。

●クロスロードゲーム

ルール　1. 災害時の判断に迷う場面でどうするか、YES か NO のｶｰﾄﾞを選択して裏返して机におく。
2. 同時に机に置いたｶｰﾄﾞをめくり、人数が多い方のチームが 1 つ褒美をもらえる。
3. ｶｰﾄﾞをめくった際に少数意見として 1 名となった場合は、褒美が 2 つもらえる。
4. YES・NO を選んだ理由を各自発表して、討議
5. 討議内容を発表

ゲームの狙い：多様な意見・判断基準があることを認識する。災害時の判断には普遍的に通用する正解がない。議論のきっかけになる。災害時のイメージがし易くなる。

＜例題の意見（→）については、抜粋＞

例題 1　あなたは 30 代の夫婦
防災には近所付き合いが大切。振興町会は総会以外にあまり付き合いが深まる活動がなさそうだし、防災に関する情報が提供されるようでもない。振興町会に入る？入らない？
→　YES（入る）：町会に入らなければ有益かどうかは解らない。だめなら抜ける。
近所を知らなければ、共助もできない。
NO（入らない）：ﾒﾘｯﾄがそもそもなさそうであれば入らない。入らないでも災害が起きたら避難所等で受けられる恩恵は変わらない。

例題 2. あたなは、部下 8 名を抱える課長。
震度 7 の地震が発生。部下全員無事だが家族の安否が解らない。防災マニュアルには全員で災害対応となっているが、部下を家に帰す？
→ YES（返す）: 帰りたいという者に対し強制的に残すことはできない。
災害時において業務命令が有効か否か。人命にも関わることで個人の判断の余地を残すべき。
NO（返さない）: 安全に帰れるか解らない状況で返すことはできない。みんなが帰りたく、移動することで道路が人であふれ緊急車両の通行に支障を及ぼす可能性がある。

例題 3. あなたは地域支援で災害救護を手伝っている企業社員
現場は一人かけても困る状況だが、BCP（事業継続計画）のため企業に戻るように指示がきた。企業に戻る？戻らない？
→YES（戻る）: 連絡が来るのであれば、代替が効かない人物であると想定し出る。
NO(戻らない): 人命に関わる対応をしている場合、業務命令でも出社する必要はないのでは？

例題 4. あなたは危機管理局のリーダー
地震で停電。非常用発電機が動いているが、一部の部屋や設備しか動いていない。燃料は 2 日分。「災害対応できないので、全部屋に電気を流して欲しい」という要望が各課より上がる。全部屋に流す？流さない？
→YES(流す): 初期の現状把握で一定期間電気が必要であると判断されたのであれば流すべき。
No（流さない）: 発電機の容量が小さいはず。全負荷対応できないはず。災害時は優先対応事項があり、全部屋に電気が必要とは思わない。

宮城県の場合では、国の機関が県庁内に出張所を予定外に作ったため、電力供給が必要になった。全部流しても、燃料消費に大きく影響しないと解った。
燃料が無くなる前に電気が復旧したが電力会社は最後まで何時復旧できるか回答は無かった。

例題 5. あなたは総務部長
地震発生し 4 階建ての建物や階段や壁にヒビが入り危険なので、全社員がビルの外に避難。
その後大津波警報が発令されたが、周囲には高い建物なし。集った人を避難させる？させない？
→YSE（受入れる）: 受入なければ津波で間違いなく被害がでる。建物は壊れないかもしれない。
No（受入れない）: 倒れる危険性があるので受入れない。

石巻 宮城県振興事務所の事例
一旦、建物外に避難したが津波警報が出たため、建屋上部に避難した。
結局、周囲が冠水しこの建物に 3 日間閉じ込められる結果となった。

例題 6. あなたは工場責任者
業務再開に必要な部品、データの保管場所が、余震があると倒れそうな被害を受けている。部下が「短時間であれば大丈夫だから」と取りに行かせてくれと言ってきた。行かせる？
→YES（入らせる）: 中小か大企業かで異なるが、代替が効かないものであれば許可する。
時間経過が不明であるが、本震で倒れなかった建物であれば、余震では倒れ難い。部下と一緒に入る。
NO（入らせない）: 危険なので入らせない。

事例: 阪神淡路でも金型を取りに帰ったりする事例が多かった。東日本では津波が来ているのが解っているが無線機を取りに帰った事例もある。無線は結果的にはその後の対応に有効であった。

以上